

# 令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和7年8月31日

学校法人 宮地学園

幼稚園型認定こども園 杉の子せと幼稚園

当園では学校評価として、教職員の自己評価と学校関係者評価を実施いたしました。教職員一人一人が、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自分自身や園全体を見つめ直すよい機会となりました。また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

## 1. 本園の教育目標

教育方針：「笑顔いっぱいの杉の子せと幼稚園！！」  
教育目標：1. つよく・かしこく・たくましい子どもの育成。  
2. 感性豊かなおもいやりのある子どもの育成。  
望ましい子どもの姿：「自分の力で、仲良く、元気に、もうひと頑張りする。」

## 2. 本年度重点目標・計画

子ども・保護者・教職員全員が笑顔で過ごせる”チームせと”をめざす。  
・教育課程の改善：行事や教育・保育をその都度検討・協議し、幼稚園教育要領が示す10の姿も踏まえた保育計画に見直しを図り、環境設定を行う。実践を大切に、子どもの成長を促す援助方法を探る。放送教育を取り入れ、教育・保育の質の向上を図る。  
・職員の資質向上：職員間の話し合いの充実を計るため、職員会のあり方を研究する。公開保育の実施と職員会や学年会等を通しての情報交換を活発に行い、子ども理解やスキルアップを図る。  
・特別支援教育の充実：関係機関との関係や教職員間の連携を深めながら支援の必要な子どもに寄り添える指導・支援を行う。  
・安全管理体制の強化：アレルギー対応を含む安全で安心の給食環境を作る。地震発生時の対応・不審者侵入への対応も常に意識し、園内で一つの命も失わない避難訓練を行う。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育課程を見直し改善を図る	A	・教育・保育活動の「反省、振り返り、評価」を重視した教育・保育実践に務め、子どもが笑顔で主体的に成長することを目指した。その結果、「反省、振り返り、評価」が、日々の教育・保育実践に定着するようになり、主体的な活動に取り組む園児の姿が多く見受けられるようになってきた。
2	職員の資質向上(研修・情報共有等)	B	・園の特色を生かした保育環境と保育内容を様々な角度から提案、議論するため、“語り合い”の時間を設けた。誰でも活発に意見が出せるよう工夫することで、新しいアイデアや情報を試してみようというチャレンジする姿勢が生まれ、保育の発展につながっている。

3	特別支援教育のための園内支援体制を整備する (家庭との協力・連携も含む)	A	・特別な支援のいる園児一人一人の理解に努め、その子にあった対応や援助を探り出している。そして、全職員が共通理解を図ったうえで、協力しての指導・援助ができています。また、発育・発達で困ったことがあれば、その都度、全職員で話し合いをもつと共に関係機関とも連携を取り解決策を模索するように務めている。
4	安全管理体制の強化	B	・アレルギー対応では、保護者と連携を取りながら可能な限りの個別対応を行っている。また、配膳を工夫したり担任、副担任の複数の目でチェックをしたりすることで、安全な給食の提供ができる体制を作ってきた。年間計画に基づき避難訓練が実施できた。

評価の基準 (A：十分達成されている。 B：達成されている。 C：取組まれているが、成果が十分でない。 D：取り組みが不十分である。)

#### 4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	4つの評価項目について重点的に取り組み、一人一人の乳幼児を大切にされた質の高い教育・保育を実践することができたし、さらなる質の向上に向けた課題も明確になった。

評価の基準 (A：十分達成されている。 B：達成されている。 C：取組まれているが、成果が十分でない。 D：取り組みが不十分である。)

#### 5. 今後取り組むべき課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	教育内容	“語り合い”の効果により、職員のより良い保育、環境構成の工夫への意識が高まっている。これが負担にならないように続けていけるようにする。
		幼稚園部、保育部の公開保育を核にし、教育実践のねらいに対する観点で研究協議を行い、保育者個々のスキルアップを図っていく。今後も、教職員のスキルアップのために研修交流と情報共有を大切にしていきたい。
		担任中心の子ども把握や理解が多いので、教職員間の情報交換を活発に行う必要がある。担任だけでなく、全職員がすべての子どもに係わり、把握や理解するように務める。また、特別な配慮を必要とする乳幼児の情報も全職員で共有し、共通理解を深めていく。
		慣れや不注意から対応がなおざりにならないよう常に高い意識をもって、安全な給食環境を作るように心がける。また、地震発生時の対応・不審者侵入への対応も常に意識し、園内で一つの命も失わない行動がとれるように心がける。

## 6. 学校関係者の評価

<令和6年度後援会会長>

○当園では、子どもの主体性を引き出す環境設定が工夫されており、子どもたちが自ら考えて行動する機会が豊富にある。

○異年齢児との交流を通じて優しさや思いやりの心が自然に育まれていると感じる。

○教職員同士の活発な情報共有と相互支援が日常的に行われており、チームとしての子どもへの対応力、保護者への支援力が向上している。

○教職員一人ひとりが常に学び続ける高い意欲を持ち、保育の質の向上に努めている点は、当園の大きな強みであると評価できる。

<評議員/株式会社adear相談役>

○取組において職員同士の「語り合い」を重視していると感じる。

職場における職員一人一人の成長や保育および教育の質の向上のためには教職員同士および先輩、上司とのコミュニケーションの緊密化は最も重要な要素であると思われる。

○業務における指針が細やか、かつ具体的に整備されており職員の人たちが園の目指すべき目標を共有できていることも、「語り合い」と合わせて働きやすくモチベーションの高い職場環境に貢献できているであろうと感じた。